

LIBRARY NEWS

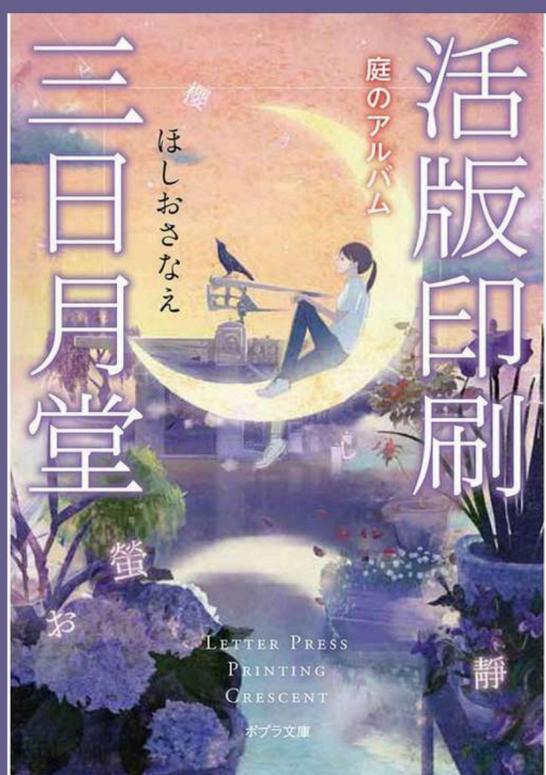
2024年度 冬休み特別号
NO.8 とある図書委員会顧問

冬休みの予定はもうたてましたか？

冬休み特別号ということで、図書委員会顧問Nが特別に本を紹介します。

好きな本のジャンルは、ほのぼのとしたハートフルな物語と理系の本です。英語科教員である私が、「仕事に関わらず好きな本を読んでもいい！」をモットーにお勧めの2冊を紹介します。

活版印刷三日月堂 庭のアルバム ほしおさなえ著 ポプラ社



この本は、活版印刷三日月堂シリーズの3冊目になります。

コピー機での印刷が主流になった時代で、昔ながらの活版印刷を続ける印刷屋・三日月堂には今日も悩みを抱えたお客がやってきます。

公式ホームページの紹介には「拾い刷る」という言葉が使われていますが、これは活版印刷の「活字を拾い、刷る」ことに由来します。この言葉のごとく、この小説は、忘れられた、隠された、言えなかった言葉を文字通り「拾い刷る」物語です。

1冊に4編物語が収録されています。私は3冊目のサブタイトルにもなっている「庭のアルバム」がシリーズの中で一番好きです。この物語では、学校にうまくなじめない中学生とその祖母である頑固なおばあちゃんのお話になります。

上手く言葉にできないものを「拾い刷る」ことが、こんなにも心うたれるとは思いませんでした。私は、初めて本を読んで泣く経験をしました。

浜村渚の計算ノート 青柳碧人著 講談社



この本は、私が本を読むきっかけになった本です。

理系教科が嫌いな人は多いと思います。理系がなくなった学校を想像することができますか？

この本の舞台は、学校から理系教科がなくなった日本。理系教科が廃絶されたことに反対する数学テロリスト「黒い三角定規」が起こす様々な事件に対して、数学が大好きな中学2年生、浜村渚が様々な事件を解決する「数学ミステリー小説」です。

この本の魅力は、理系教科が大の苦手な大人でも分かるようなストーリーであることです。登場人物のほとんどが数学が苦手なので、等身大で読み進めることができます。完璧な理解ができていなくても大丈夫！きっと登場人物も同じ気持ちです。勿論、数学の知識があるとより楽しめます。数学テロリストと浜村渚の数学愛、それに振り回される大人たちのドタバタにも注目です。